

福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話(521)8494

7月来館者数	3,209名
月平均来館者数	3497名
日平均来館者数	137名
通算来館者数	174,867名

太平洋の核被害の重視と

国連・日米政府の責務

広がった被爆者問題
ことしの原水禁世界大会・国際会議に参加して感じたことは、パラオ島からの代表などの参加もあって、被爆者問題が広島や長崎だけでなく、ビキニはもとより太平洋諸島からアメリカのネバダ、ニューメキシコその他での核実験や核廃棄物の投棄などの被害など、問題も地域も広く取りあげられたことである。

とくに、日米政府によるパラオや太平洋地域への核廃棄物投棄施設の設置計画は、日本を核加害国にとすると指摘された。調査不十分な被爆の実体

昨年、来日した「広島・長崎被爆米兵の会」のハリイ・コポラ氏の遺児のマイケルや、ネバダ米兵被爆者未亡人パット・ブローディイらは、ネバダをはじめニュー・メキシコなどに核実験やウラン鉱の被害が出ているのは、調査不十分な被爆の実体

広島・長崎の原爆被爆の実相の追跡調査や被爆者の救済は、本来、アメリカの責任だが、敗戦により免責されているのならば、日本政府の責任である。しかし、道義的には加害国アメリカは、調査と救済にもっと積極的であるべきだろう。また、太平洋住民の被害については、アメリカ、フランスなど加害国の責任は免るべくもあるまい。さらに、フランスやアメリカの太平洋上における核実験や核廃棄物の投棄の被害については国連にも明らかに責任がある。

物の投棄の被害については国連にも明らかに責任がある。

国連と日米政府の責務
アメリカやフランスの太平洋上における核実験は信託統治領内で行われ、住民の福祉や安全を守る国連憲章の信託統治制度の条項に違反している。従って、国連は住民被害について調査団を派遣し、その救済とともに、太平洋上の核実験や核廃棄物の投棄を直ちに中止させる責任があり、日米政府はその国連の責務貫徹のために協力する義務がある。

新刊パンフレット

**ビキニの悲劇は
終わっていない**

広田 重道著
平和協会発行
三四頁 図版入り
定価三〇〇円

(本誌読者には送料無料で
すから、お申込み下さい)

多彩な夏の諸行事に

協会は積極的に参加

—いづれも招請に応じて—

●労音グラウンド・カンタータ
7月29日夜、上野の東京文化会館でひらかれた原水爆反対の音楽会は大きな成功を納めたが、鹿田事務局長が参加した。

●原水禁都民のつどい
7月30日夜、東京原水協主催で、神田・労音会館でひらかれた都民の集会は、原水禁世界大会の前夜祭としてオランダ代表などの参加もあり盛会。協会からは鹿田事務局長が出席。

●藤井日達師誕生祝宴
7月31日夜、品川パシフィックホテルでひらかれた日本山妙法寺藤井日達師の96才の誕生祝宴は各層知名士約六五〇名の参加で盛大なものとなったが、協会からは三宅会長のほか、広田専務理事(代理・唐笠事務局長)が出席した。

●ノーモア・広島・コンサート
八月一日夜、新宿・安田生命

ホールでひらかれた原水爆禁止音楽会は、芝田進午氏らの努力による本邦最初のものであったが、約六〇〇名の参加者によって、大きな成功を納めた。協会からは広田専務理事(代理・鹿田事務局長)が参加した。

●原水禁世界大会国際会議
八月二日・三日の両日、神宮外苑・日本青年会館でひらかれた80年原水禁世界大会・国際会議には、理事会決定どおり、広田専務理事と本多喜美理事とが代表として参加した。

第一日目の総会のうち、第二分科会(被爆者問題、平和・軍縮問題がテーマ)に出席した両代表について八月三〇日付朝日新聞朝刊は次の如く報じている。

第五福竜丸平和協会の広田重道専務理事は「第五福竜丸のあと、八百五十隻の日本漁船が被爆しながら追跡調査さえされ

ていない、住民被害と合わせ、ビキニはまだ終わっていない」と主張。また、南太平洋の核被害者を見舞ったことのある女性参加者は「被爆者同士の連帯は必要であり、また可能」と訴えた。

この後段の女性参加者とは本多喜美代表であり、両代表の発言が一般参加者の共感を博したことは、この新聞報道で明らか。

(第一面、主張を参照)なお、本多理事は広島・長崎の両大会に協会代表として参加の予定。

●原爆犠牲者合同慰霊祭
八月三日午後一時から品川の東海寺で、東京被団協・社団法人東友会主催、品川仏教会後援でひらかれた「被爆35周年・第16回原爆犠牲者合同慰霊祭」は被爆者の家族をはじめ都知事(代理)など多数の名士が参列し、おごそかに取り行われた。協会からは広田専務理事が世界大会国際会議の席上から参加し、焼香ののち、慰霊碑に参拝した。

▽毎年、夏になると原爆問題について、新聞、テレビ、ラジオなどマスコミは、驚くほどの熱の入れようだ。しかし、秋風とともに、動かざること林の如しとなる。

▽それは何もマスコミだけの責任ではない。原水禁運動そのものが、風物的になっっているからだ。ただ、行事の不連続線では原水爆問題は解決しない。

▽第五福竜丸を通じて、ビキニ事件やそれに先行する広島や長崎の悲劇を、一年を通じて訴えつつけているのが、第五福竜丸展示館であると自負している。

▽それに敢て反駁はないが、その割に、まだまだ存在価値が一般に認識されていないことが、利用度にはっきり現れている。どこか、私どもの努力が足りないためだろうか。

船も古い人も老いて夏来る (H)

編集後記

命は海に――第五福竜丸は告発する

感動与えた四中祭の舞台

去る六月一二・一三の両日、品川区立荏原第四中学校では学校祭を開催しましたが、その中で、三年二組がビキニ事件を取り上げ、「命は海に」と題した音楽構成詩劇を上演し、高い評価を得ました。

これは、三部構成からなり、第二次大戦中、戦事徴用で船を奪われた焼津の情景から、その戦後の復興、そして福竜丸の出港、被災までを第一部に、福竜丸の帰港から久保山氏の死までを第二部に、更に第五福竜丸保存運動から展示館の完成までを第三部とし、挿入歌もすべて自分たちで作詩作曲するなど堂々たるオリジナル・シナリオを作り上げました。

この四中祭に先立つ五月一日、このシナリオ作成の中心メンバー一人が担任の佐貫秀子先生と展示館を訪れ、約三時間

にわたって熱心に説明を聞いて行くなど、念入りに下準備を続けていました。

こうした下調べを積み上げた結果の四中祭本番だっただけに多くの父兄や教師、生徒に、少なからぬ感動を与えたようです。又同時に、この取り組みを通して、この三年二組が非常によくまとまってきたようでもあります。

クラス新聞「紫陽花」では、四中祭後の前進面として①四中祭後クラスがおもしろくなった②リーダーを中心にまとまりがついてきた③クラスが明るくなった④「ごくろうさん会」が成功した⑤英語のテストで男子が女子をぬいた。の五点を指摘しています。

また、四中祭に関する父兄の感想文も、そのどれもが、子供たちの頑張りに目を見張り、担

任の適切な指導への感謝を込めた内容のものばかりです。

ここにその一部を紹介します。

東野明美

(略) 練習に入る前、学校から帰るなり「お母さん、第五福竜丸の話を知っている？」と聞いた。私は答えた、ビキニの灰の話し、久保山さんという人の死んだ事など、少し子供に話した。子供は、それを二組が四中祭でやるというっている。(略) 毎日帰りが遅い。練習をして帰ってくる。帰って来て子供が話してくる。(略) 先生とクラス全体が一生けんめい取り組んでいる様子。クラスのチームワークの良さ(略) いよいよ本番。家の子は舞台に出て大声でナレーションをやる。今までに一度でもあったでしょうか。私はすぐくおどろいてしまった(略) 帰って来た子供と、私はしばらく福竜丸の話をした。

橋本尚美

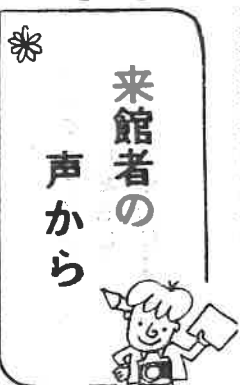
(略) 日頃物価のことや子供の受験のことやらで忘れていた人間の最も素朴で本源的なテーマである死の悲しみ、平和への願望が私の心の底から呼び覚まされたような気が致しました。親として、また大人の一人として、もっとしっかり大地に足を付けて人間の生き方について考える必要があると感じました。(略) 戦争の悲惨さや原爆の恐ろしさを本当の意味で理解しているとは思えない中学生達が、このような素直な気持で、私達の心に迫ってくる劇を演じることでできたのは(略) やっぱ先生熱意ある指導の下に全員が揃って熱心に練習を重ねてきた結果ではないかと思えます。内容の消化はとも角としても、全員が協力して熱心に演じれば、多くの人達に感動を与えることができ、しかも自分達も充実感を味わうことができるのだということを知った、この中学生達は本当に幸せだと思います。

ビキニ被災船の調査 日本原水協がのり出す

日本原水協は、このほど、ビキニ被災者の実態の調査と、その援護活動をすすめる事を決定し、小委員会を設置して、調査活動の準備を始めました。

これは、去る五月五日、六日の両日開かれた、日本原水協第四八回全国理事会で決定された「一九八〇年度の運動方針」の中の「課題にもとづく国民運動」の一つとして、「一九五四年の太平洋ビキニ環礁でおこなわれたアメリカの水爆実験によって、第五福竜丸をはじめ八百隻をこえる日本の漁船が被災しています。この乗組員の健康と生活がおよびやかされていることが改めて明らかにされているなかで、この実態の調査とその援護活動をすすめます。」と規定された事に基づくものです。

日本原水協は、このほど、ビキニ被災者の実態の調査と、それぞれ機会をもち、宮城県、



私はこんなに近くで船を見るのははじめてです。

一つ一つ写真を見ていく度にこの船で一生けんめいに魚を取っていたすがたが目にかぶようです。

水爆実験なんかでこんなに被害があつて、とても、乗っていた人たちがかわいそうです。これから、このようなことはぜったいあってほしくない。

このことで病気になるたり命をおとってしまった人がとてもかわいそうです。

江戸川区二之江中一年

近藤明美

静岡県、和歌山県などを重点調査地域とし、八月下旬から調査を開始することになっています。被災から二六年。最初の政府調査以来、最近になって、一部のマスコミが報道した事を除い

海の中に捨てられていたところ見て再び今日みました。このように保存できた力は何だったのだろうかと思いません。都民の力で保存しつづけていってほしい。それにしても、なぜ館内で写真をとれないのでしょうか。この姿を来たことのない人に見せたのには。ルーブルではフラッシュ以外の撮影を許していました。

展示館案内を子どもにも、子供を通して親も見れます。

無記名

ぼくの父は一九四五年(昭和二〇)八月六日広島で、軍ではたらいいて被爆しました。ぼくの母は、和歌山でイモをつくっていて、グラマンにやら

れたがたすかりました。

ぼくは、その二人の間に生まれました。今、和歌山で教師をしています。今年父に宿題を出しました。それは、被爆者の記をか

伝える者が減びたとき、この記が少しでも助けになればと...

無記名

今、子育てのさ中です。子供ができてからは、平和のことも、より身近に、真剣に考えるようになりました。

子供たちが本当にすこやかに育つ社会に早くしたいです。

この展示館を見学して、核兵器のおそろしさを改めて知ると同時に、また大きくはげまされるものを感じました。

和歌山県田辺市 一母